

「不況に活かす 農家の知恵」の発刊にあたって

長引く「不況」のなかで、わが家、わが村はどうするか。そんな時、なにより頼りになるのが、農家が、田畑で、農作業のなかで、暮らしのなかで生み出してきた知恵と工夫です。「現代農業」の「あつちの話 こつちの話」には、毎月、各地からそんな農家の知恵と工夫が寄せられています。そこで、「あつちの話」約三〇年分・約三〇〇〇本の記事から実用的な記事をセレクトし、「二〇〇一年特別号」として発行することにしました。

身近な資材や生きものを活かした病害虫・鳥獣害対策、まわりの資源や廃棄物を利用した施肥・土づくり、地域の自然と作物の力を活かした栽培・飼育技術、葉草など農家ならではの健康を守る工夫、食と暮らしのアイデアなど、本書に収められた「農家発」の約八〇〇の知恵と工夫は、農家の経営と暮らしを守り豊かにする、限らないヒントを与えてくれます。

* * *

「あつちの話」を書いているのは、全国を巡回して、雑誌、書籍、ビデオ、CD-ROMなど農文協の文化財を販売（普及）している農文協の職員です。本を普及するなかで、農家に教えてもらった工夫を、農家に成り代わって文章にし、全国の農家に発信する。農家が茶飲み話を通して行っている知恵の交換の場に農文協の普及職員が入り、こうして「あつちの話」という、農家の知恵と工夫の交流の場が成り立っています。

「あつちの話」の「情報」には、際立った二つの特徴がありま

す。

一つは、大変個性的な、生きた情報だということです。その農家が、自分のために、自分の条件のなかから編み出した工夫ですから、そのまま、だれでもどこでも役立つ成果があるとは限りません。農家が自ら生みだし確かめた工夫、それは、それぞれの農家の知恵と工夫を刺激するヒントの泉なのです。

もう一つは、身近にあるものを活かす自給的な工夫だ、ということです。だからコストダウンのヒントになるとともに、それだけでなく、栽培・飼育の楽しさと暮らしの豊かさを築いていく（気づいていく）豊富な着想を与えています。

* * *

本書の「農家の知恵」を、ぜひ多くの人に役立てていただきたいと思います。農家はもちろん、行政・団体の方々には農家の資源活用力、自給力を活かした地域施策づくりに、また教育関係者には、学校の地域学習、調べ学習の他に類のない情報として、また、学校園を楽しむ学びの場にするための農家からの贈りものとして、ご利用いただければと思います。

終わりに、貴重な知恵と工夫をお寄せいただいた農家の皆さんに、心よりお礼申し上げます。

●各記事の末尾の記載は、掲載年月号と普及職員の名前です。